彙　報

平成十八年度　研究所所員研究業績

乾　仁志

○論　文

「真言宗のお経」『現代に密教を問う』（高野山大学選書第三巻）小学館スクウェア　二〇〇六年九月　六四―七九頁

中村　本然

○論　文

研究論文

「真言密教と「生きる意味」」『密教学研究』第三八号　二〇〇六年三月　八五―一三九頁

「入定信仰と浄土信仰」『高野山の伝統と未来』（高野山大学選書第四巻）小学館スクウェア　二〇〇六年一二月　一一〇―一二七頁

「『金剛頂経開題』にみる思想的特徴について」『高野山大学密教文化研究所紀要』第二〇号　二〇〇七年二月　一―一八頁

「『釈摩訶衍論』の五重問答について」『福田亮成先生古稀記念　密教理趣の宇宙』『智山学報』第五六輯（通巻七〇号）　二〇〇七年三月　二二九―二五八頁

○その他

「シンポジウム「密教学の救済論的可能性」」『密教学研究』第三八号　二〇〇六年三月　一六一―一九三頁

藤田　光寛

○論　文

「高野山の学道と真言教学」『紀伊山地の霊場と参詣道　高野山―神と仏のいます山―』高野山真言宗教学部編　平成一八年二月　六―三一頁

「高野山の年中行事」『高野山と密教文化』（高野山大学選書第一巻）小学館スクウェア　二〇〇六年九月　四八―六三頁

○口頭発表

「法会のしくみ」高野町・高野町教育委員会・高野山大学共催講座　高野山学（高野大学）　二〇〇六年七月

「仏教と食」高野町・高野町教育委員会・高野山大学共催講座　高野山学（高野大学）　二〇〇六年一〇月

「綜芸種智院に習う」地域交流センター主催　教育改革リレーフォーラム in 高野　基調講演（高野山大学）二〇〇六年一〇月

室寺　義仁

○口頭発表

「*Adhiṣṭhāna* and *Mahākaruṇā* in the **Daśabhūmikasūtra**」国際密教研究学術大会（略称 ICEBS）（高野山大学）二〇〇六年九月

第2パネル、The **Avataṃsakasūtra** and the Concept of *Adhiṣṭhāna*（オーガナイザー：桂紹龍・龍谷大学教授）におけるパート発表

「『阿毘達磨倶舎論』における「一切智」」密教研究会学術大会（高野山大学）二〇〇六年一〇月

「「大悲」と「加持」―「即身成仏」化へのプロセス試論―」密教文化研究所第一〇回研究会（「密教と現代」ワークショップ第二回）（高野山大学）二〇〇六年一二月

○その他

『ブッダの言葉・大師の言葉から学ぶ「大悲」の教え』高野山大学夏季生涯学習講座 in 高野山 2006 テキスト（高野山大学）二〇〇六年八月　口絵二頁全八五頁

「平安京と仏教」『CISMOR Voice』No.6（2007 Spring）同志社大学一神教学際研究センター　四―六頁

平成十九年度　密教文化研究所だより

定例の合同研究会（課題「弘法大師の思想とその展開に関する研究」、「密教の形成と流伝に関する研究」、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」）は、今年度十回開催された。

第1回　5月14日（月）　タング・リンポチェ談話会

第2回　5月28日（月）　奥山直司「ベンガル仏教史に関する一考察―バングラデシュの遺跡と遺物を手掛かりに―」

第3回　6月25日（月）　安藤和雄「ベンガル仏教世界が伝える古代農業における技術変化と伝播」

第4回　7月9日（月）　外川昌彦「ベンガルのバウルについて」

第5回　7月23日（月）　静春樹「インド初期中世における仏教の地勢：Davidson M.R. 著 Indian Esoteric Buddhism の紹介」

第6回　10月1日（月）　佐藤隆彦（専従研究所員）「字輪観について」密教と現代ワークショップ　第1回

第7回　11月5日（月）　山脇雅夫（兼任研究所員）「宗教的コミュニケーション――デュルケームの宗教論を手がかりに」
室寺義仁「『五大にみな響きあり』・空海のコトバ論を巡って ―空海の『声字実相義』に至るまで―」

第8回　11月26日（月）　中村本然（兼任研究所員）「『五大にみな響きあり』・空海のコトバ論を巡って ―空海の『声字実相義』以降の展開―」
大塚伸夫「『請観世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経』における初期密教の特徴 ―ウパセーナ比丘説話を中心として―」
高松哲雄「臨床と宗教家の役割」
密教と現代ワークショップ　第2回

第9回　12月22日（土）　手島勲矢「聖典の言語と人間の言語：ラビ・ユダヤ教の聖書解釈から（1）」
棚次正和「『声字実相義』への言語論的アプローチ（1）」
密教と現代ワークショップ　第3回

第10回　1月28日（月）　手島勲矢「聖典の言語と人間の言語：ラビ・ユダヤ教の聖書解釈から（2）」
棚次正和「『声字実相義』への言語論的アプ

ローチ（2）」
生井智紹「祈りの表現としての宇宙―『大日経』の語曼荼羅と秘密荘厳住心の関連から―」

合同研究会の他、個別の研究会として、中村本然所員主幹で昨年度に引き続き「『常盤井殿記録』輪読会」を八回開催し、その研究成果を『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊として刊行する予定である。また、今年度より「『三教指帰』輪読会」を発足させて、六回開催した。

平成十九年度は密教文化研究所受託研究員として、十七名、ペテロ・バーケルマンス（Peter Baekelmans、ベルギー、オリエンス宗教研究所）、パオラ・ディ・フェリーチェ（Paola Di Felice、イタリア）、大森弘（近畿大学名誉教授）、川﨑一洋（高野山大学講師）、サンニャ・ユルコヴィッチ（Sanja Jurkovic）、伊東秀一郎、土居夏樹、中谷征充、波多野智人、平賀由美子、前田禮子（以上七名、高野山大学大学院博士後期課程単位取得退学）、加納和雄（日本学術振興会特別研究員ＰＤ）、上野康弘、大観慈聖（以上二名、京都大学大学院博士後期課程単位取得退学）、大柴清圓（中国、中山大学中国語言文学系古文字学博士課程学位取得）、松田ウィリアム（William Matsuda、ハワイ大学大学院東アジア言語文学研究科博士課程）、李新正（中国）各氏を受け入れている。

高野山大学では密教文化研究所初代所長中野義照博士の業績を顕彰するため、中野博士の著作物売上金と御親族の寄附金を基金として、平成十二年から「中野義照博士奨学金」を設けている。平成十九年度は二件の申請があったが、七月四日密教文化研究所協議会において選考の結果、採択者なしと決定した。

密教文化研究所構成員名簿（平成二十年二月現在）

所　長　生井　智紹（文学部教授）
専従研究所員　奥山　直司（文学部教授）
〃　佐藤　隆彦（文学部准教授）
兼任研究所員　乾　仁志（文学部教授）
〃　中村　本然（文学部教授）
〃　藤田　光寛（文学部教授）
〃　室寺　義仁（文学部教授）
〃　山脇　雅夫（文学部准教授）
委託研究員　浅井　覺超（高野山大学講師）
〃　安藤　和雄（京都大学准教授）
〃　大塚　伸夫（大正大学講師）
〃　静　春樹（高野山大学講師）
〃　高松　哲雄（徳島大学講師）
〃　田中　悠文（智山専修学院学監）
〃　棚次　正和（京都府立医科大学大学院教授）
〃　手島　勲矢（同志社大学大学院教授）
〃　外川　昌彦（広島大学大学院准教授）
〃　トーマス・ドライトライン（高野山大学講師）
顧　問　松長　有慶（名誉教授）
研究所事務室長　生井　智紹
研究所事務室参事　上野　康弘
研究所事務室参事　田寺　則彦

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条　密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条　編集委員会は、次の委員をもって構成する。

(1)　研究所長

(2)　専従研究所員

(3)　「紀要」編集担当者

2　編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条　編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条　編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

(1)　「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。

(2)　「紀要」寄稿者への補筆および補正の要請。

第5条　委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条　この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附　則

1　この規程は、平成九年四月一日から施行する。

1　この規程は、平成一四年五月二二日から施行する。

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条　『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条　「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

(1)　研究所長

(2)　研究所員

(3)　研究員

(4)　編集委員会が適当と認める者

第3条　原稿は、原則として四百字詰原稿用紙七十枚以内とする。

第4条　原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条　寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条　原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条　寄稿者には、掲載誌二部および抜刷三十部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附　則

1　この規程は、平成九年四月一日から施行する。

執筆者紹介（掲載順）

棚次　正和　密教文化研究所委託研究員
（京都府立医科大学大学院教授）
中村　本然　密教文化研究所兼任研究所員
（高野山大学文学部教授）
大観　慈聖　密教文化研究所受託研究員
（京都大学大学院博士後期課程単位取得退学）
大柴　清圓　密教文化研究所受託研究員
（中国、中山大学中国語言文学系古文字学博士課程学位取得）
外川　昌彦　密教文化研究所委託研究員
（広島大学大学院准教授）
大塚　伸夫　密教文化研究所委託研究員
（大正大学講師）

編集後記

『高野山大学密教文化研究所紀要』第二十一号には、棚次正和、中村本然、大観慈聖、大柴清圓、外川昌彦、大塚伸夫各先生の論文を掲載した。

また、中村本然所員主幹で輪読会を開催していた『常盤井殿記録』の影印・翻刻・書下文・解説を別冊として近日中に刊行する予定である。

『常盤井殿記録』は、嘉元三年（一三〇五）四月、後宇多上皇が醍醐報恩院道順、仁和寺菩提院了遍等を集め、常盤井殿（亀山法皇の仙洞御所）において、真言の宗義を談義した際の記録で、『道順記』『真言宗義精談集』『醍醐方教相宗義』の別称が確認されている。鎌倉後期の宗義、論義を研究する上で貴重な資料と言えよう。

今年度、高野山大学は藤村隆淳新学長の下、新体制がスタートした。大学の調査研究の根幹の一端を担う部署として、密教文化研究所に課せられた使命はきわめて重いものがある。

（田寺記）

高野山大学密教文化研究所紀要　第二十一号

平成二十年二月二十一日　印刷
平成二十年二月二十五日　発行

編集者　密教文化研究所
代表者　生井智紹

発行所　密教文化研究所
和歌山県伊都郡高野山高野山大学
電話（〇七三六）五六〇二三九〇　〒六四八〇一〇二

印刷所　第一印刷出版株式会社
大阪市福島区福島七―一三―一
電話（〇六）六四五八―五六七一～六　〒五五三―〇〇〇三

© Research Institute
of Esoteric Buddhist Culture
Koyasan University
Printed in Japan 2008